# IAUD Newsletter vol.11

2018.04



### IAUD Newsletter vol.11 第 1 号(2018 年 4 月号)

1. IAUD アウォード 2017 発表会/表彰式&プレゼンテーション in ミュンヘン開催報告・・・・	1
2. IAUD アウォード 2017 受賞紹介①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3. 住空間プロジェクト IAUD 住宅学生コンペ表彰式開催報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
4. 余暇の UD プロジェクト NHK 字幕制作現場見学会開催報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
5. IAUD 4 月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 18



# IAUD を世界に知らせる貴重な一歩に

「IAUD アウォード 2017 発表会/表彰式&プレゼンテーション in ミュンヘン」開催報告

3月9日(金)にドイツのバイエルン州都 ミュンヘンにあるオスカー・フォン・ミラー・ フォーラムにおいて、「IAUD アウォード 2017 発表会/表彰式&プレゼンテーション in ミュ ンヘン」が開催されました。

7 年目となる IAUD アウォード事業は、UD の成果を今後さらに海外へ配信するために 今回初めて海外でイヴェントを実施し、14 か 国からの方々にご参加いただきました。

当日は IAUD アウォード 2017 審査結果が 発表され、参加した受賞者には古瀬敏理事 長より表彰状が授与されたほか、受賞した取り組みのプレゼンデーションも行われました。



表彰式での川原専務理事(写真左)と古瀬理事長

また、IAUD アウォード 2017 審査委員会による基調講演やパネルディスカッション「UD は世界を変えられるのか」も行われ、成功裏に終了しました。

今号の Newsletter では当日の様子を IAUD アウォード 2017 審査委員の川原啓嗣専務理事が報告します。

# IAUD 主催の初の海外イヴェント

IAUD アウォード発表会は従来、偶数年は国際 UD 会議のプログラムの中で実施し、奇数年は年度末に行われる成果発表会などと併せて行なったりしていましたが、いずれも国内での開催でした。7 回目となる今回は初めての試みとして、海外で行ないました。

そもそも、IAUD は「国際」の冠を掲げ、定款に定める目的及び事業内容に、はっきりと「UD に関わる事業を本邦および海外にて行なう」と明記しており、国際 UD 会議も国内各地での開催に限定されるべきではない、との議論がありましたが、国外開催の試みは開催地のホスト団体との連携や、開催自治体の資金的支援に確証が得られない、などの理由で実現には至らない状態が続いていました。

今回、IAUD アウォード発表会をミュンヘンで開催するにあたっては、2017年5月にドイツ・バイエルン州から「UD に関する展示会をぜひミュンヘンで開催してほしい」という強い要望があったことが発端となっています。

ミュンヘンでは毎年、バイエルン州経済省の後援で「ミュンヘン・クリエイティブ・ビジネス・ウイーク(MCBW)」というイヴェントを3月上旬の時期に開催しており、その中で「日本の UD 展」を開催してくれないか、との依頼がIAUDに寄せられました。

諸般の事情により、MCBW への正式参加はなりませんでしたが、この話を繋いでくれた IAUD の友好団体「ドイツ UD 研究所(IUD)」代表で、IAUD 評議員かつ IAUD アウォード 2017 審査委員でもあるトーマス・バー



IUD 代表のバーデ氏

デ氏との信義に応える意味でも、IAUD アウォードの発表会だけでも実施する結論となり、紆余曲折の末、ようやく実現にこぎつけたわけです。



会場のオスカー・フォン・ミラー・フォーラム (提供:富士通デザイン(株)杉妻様)

会場は IUD が主催する「UNIVERSAL DESIGN COMPETITION 2018」のイヴェントのために用意していた「オスカー・フォン・ミラー・フォーラム」の一角を借りて実施したため、会場費、機材レンタル費、レセプション費などは最低限に抑えることができたのは幸いでした。

会場名称の由来となる「オスカー・フォン・ミラー」とは、もともとドイツの電気技術者であり、AEG の前身であるドイツ・エジソン電気会社の設立者でバイエルン州の電気事業の発展や電力インフラ整備に尽力した、いわば立志伝中の名士であります。

ミュンヘン市内の道路や公共施設にも彼の名前が冠せられ、またドイツ博物館の設立者としても、地元では知らない人はいないほど有名な人物です。

筆者は上述の「UNIVERSAL DESIGN COMPETITION 2018」の審査委員も拝命していたため、 3月1日(木)にはミュンヘン入りし、翌2日(金)の審査会に立ち会いました。

詳細を述べるのは控えますが、応募作品のレベルは高く、ドイツでもかなり UD に関心が高いことがうかがえました。

また、バーデ氏側とは「IAUD アウォード 2017 発表会/表彰式&プレゼンテーション in ミュンヘン」の準備に約 1 週間を費やして細かい打合せができたため、安心して本番を迎えることができました。

# 世界 14 か国から参加

事前広報が不十分だったにもかかわらず、当日は 14 か国から参加があり、午後の UD シンポジウムでの質疑応答も活発に行なわれました。

IAUD が行なう国際 UD 会議では同時通訳と同時字幕システムが定番となっていますが、結構な費用がかかるため、今回は実現できませんでした。従って、英語オンリーのコミュニケーションではありましたが、有意義な意見交換ができたと考えます。

会場との質疑応答で感じたのは、まだまだ IAUD が海外では知られていないことで、タイから参加した金賞受賞者のモンクット王工科大学建築学部長サワスリ教授からは、「IAUD が国際

的な活動を行なっていることに敬服している。ぜひ会員になりたい。 タイでも国際 UD 会議をやってほしい」との言葉を頂きました。

また、IAUD アウォード 2017 審査委員長のロジャー・コールマン英国王立芸術大学院名誉教授からも、「今回のミュンヘンでの発表会は IAUD の活動を世界に知らせる意味で貴重な一歩だ」との感想を頂戴したのは、我々にとって大きな励みと感じています。



講評するコールマン審査委員長→ (提供:富士通デザイン(株)杉妻様)

### IAUD 事業の更なる海外展開へ

ドイツは日本に次いで超高齢社会に突入している国でもあり、今回、はからずもそのドイツのミュンヘンで IAUD 主催となる初の海外イヴェントを開催できたのは、今後の国際 UD 会議ほか様々なイヴェント展開へのステップボードとして大変有意義だったと思います。

IAUD アウォードへの参加者ほか様々な支援を 頂戴した方々には、紙面を借り改めて感謝申し上 げます。(了)



参加者と記念撮影

- ※IAUD アウォード 2017 受賞結果はこちらをご覧ください。 <a href="https://www.iaud.net/award/9631/">https://www.iaud.net/award/9631/</a>
- ※IAUD アウォード 2017 審査講評はこちらをご覧ください。 <a href="https://www.iaud.net/award/9634/">https://www.iaud.net/award/9634/</a>



# 「Society for All(みんなのための社会)」実現へ

## 「IAUD アウォード 2017」受賞紹介①: 大賞受賞の取り組み

Newsletterでは今号より、「IAUD アウォード 2017」 大賞と金賞を受賞した取り組みを順次ご紹介します。

第 1 回目は大賞を受賞したパナソニック株式会社の「パナソニックの UD コミュニケーション」です。

IAUD アウォード 2017 審査委員会のロジャー・コールマン委員長は、「パナソニックの UD への長年の取り組みが、一貫性のあるアクセシビリティの高い、コミュニケーションプラットフォームの形でまた一歩前進した UD の傑出した例。UD の発展と推進において同社が国内外で果たしている主導的役割を実証しており、その前向きで教育的なメッセージを高く評価した」と講評しました。



ミュンヘンの発表会会場で左から古瀬理事長、 中尾氏、コールマン審査委員長

受賞した「パナソニックの UD コミュニケーション」について、同社デザイン戦略室の中尾洋子氏に紹介していただきます。



# UD の重要性を発信し社会を牽引するために

大賞:「パナソニックの UD コミュニケーション」/パナソニック株式会社



# UD の価値を発信する

パナソニックは 1918 年の創業以来、常に「人」を中心に置き、その「くらし」にフォーカスしてお客様と共に歩んできました。より多くの人々に配慮し、使いやすさを追求する UD は、当社が掲げる「人にやさしいモノづくり」に欠かせない要素です。

そのような当社が 2018 年に創業 100 周年という節目を迎え、さらに 2020 年に日本でオリンピック・パラリンピックが開催されるこの時期に、今一度 UD の重要性を発信し、社会を牽引する気概で取り組んでいきたいと考えました。

そこで、2006 年から継続して作成している当社の UD パンフレットと UD サイトという 2 つのコミュニケーションツールを、UD の価値を広く社会に伝えていくことを目指して、社会課題の解決をテーマにリニューアルしました。

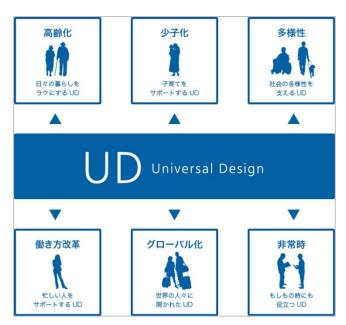
## 日本が取り組むべき6つの社会課題

リニューアルのテーマに選んだ社会課題 としては、今、日本が世界に先駆けて取り組 むべき課題と考えられる以下の6つを取り上 げました。

1つ目は高齢化。超高齢社会でも、高齢の方を含む、より多くの人が無理なく快適に暮らす事のできる社会のために、心と体の負担を軽減することを目指す必要があると考えます。

2つ目は少子化。安心して子どもを生み、 育てることができる社会のために、子どもの けがを未然に防いだり、子どもと一緒に楽し めることを目指す必要があると考えます。

3つ目は多様性への配慮。より多様な 人々が平等に生活でき、色々な事にチャレ ンジできることを目指す必要があると考えます。



テーマとした6つの社会課題

4つ目は働き方改革。様々な境遇の人が、心

身を健康に保ちながら社会に貢献できることを目指す必要があると考えます。

5つ目はグローバル化。様々な国の人同士が、異文化を尊重し、理解しあえることを目指す必要があると考えます。

6つ目は非常時の対応。普段から災害に備え、もしもの際にも役に立つことを目指す必要があると考えます。

これら 6 つの社会課題に関する当社の考え方を、具体的な UD 商品やサービスの事例で説明するとともに、人を中心とした大きなビュジアルとエビデンスで伝わりやすく構成しました。



人を中心に、従来の伝わりやすさを意識した紙面構成

## 多様なアクセシビリティ

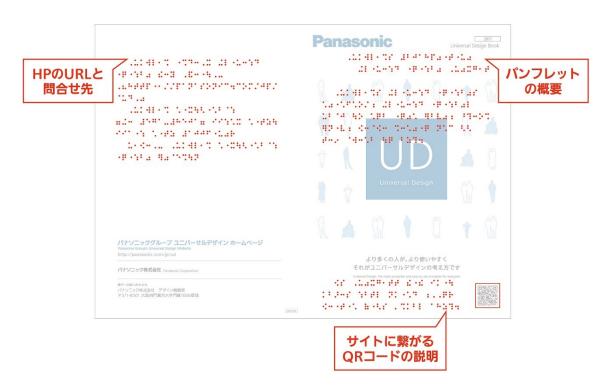
次に、この UD パンフレットと UD サイトのアクセシビリティについて説明します。

UD 関連の展示会や出前授業等で配布する、お客様との接点となる UD パンフレットには、日本語で点字が入っています。

これがパナソニックの UD のパンフレットであること、当社の UD の考え方や様々な UD 商品・サービスを紹介していることや問合せ先の他に、このパンフレットとほぼ同じ内容のサイトに繋がる QR コードがあることが、点字で記されています。

QR コードはカメラの位置が合わせやすいように、触って分かる四角い枠で囲っています。この仕様は、障害者支援団体の全盲の方に確認して頂いた結果、合わせやすいので他でも広めて欲しい、と評価頂きました。

繋がった先の UD サイトは、スクリーンリーダーに対応しているので、目の見えない方も内容を知って頂けるようになっています。



点字や QR コードの枠で、触って分かるように配慮した表紙 ※分かりやすいように点字部分を赤で示しています。実際は透明です。

さらに、UD パンフレットの文字は、パナソニックがフォントメーカーのイワタ様と一緒に世界で初めて開発した UD フォントを使っています。

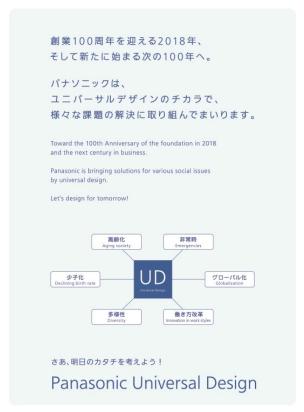
このフォントは目が見えにくい方にも形が認識しやすく、他の文字と見間違えにくいような工夫が施されたフォントです。



視認性や判読性など、見やすさを研究して開発した UD フォント

UD パンフレットは英語併記、UD サイトは日本語版とグローバル版(英語)を作成しています。

海外の方にも誤解なく伝わるよう、海外の UD 担当者にもチェックしてもらい、文章の表現に加え、グラフィックも改良しました。



英語が併記された UD パンフレット



UD サイトのグローバル版

また、パナソニックは子どもが UD を勉強するためのサイトも作っています。 そのサイトとも連携することで、子どもにも UD を理解し、様々な取組を知って頂けるようにしています。





子ども向けの UD を勉強するサイト(写真左)とそのサイト内の連携パート例

# UD コミュニケーションツールを使った UD を広める活動

次に、この UD コミュニケーションツール使って行っている、UD を広める活動について説明します。

UD パンフレットや UD サイトを学校での出前授業などで教材として用いることで、次代を担う子どもたちに、UD の価値や取り組む意義を伝えています。

また、社内で新入社員や専門職の人への UD 研修や、社外での UD 講演でも活用し、より多くの商品やサービスなどに UD の考えを反映してもらえるように活動しています。

### さらなる UD 価値の普及へ

この UD パンフレットと UD サイトは、UD を広めていくための一つのツールにすぎません。 今までも、これからの社会でも、UD の考え方は大切なものです。今後も、このコミュニケー ションツールを継続して進化させると共に、様々な形で UD の価値を伝えていきたいと思っています。(了)



UD 出前授業での活用風景



社内の研修での活用風景

※パナソニックの UD サイトはこちらをご覧ください

http://panasonic.com/jp/ud



# 学生らしい斬新な住まいと暮らし方を提案

活動報告:住空間 PJ IAUD 住宅学生コンペ「UD プラスの家~『ゼロからつくる日本の住まい』を考える~」表彰式開催

住空間プロジェクトが2017年度の活動として実施した「UDプラスの家〜『ゼロからつくる日本の住まい』を考える〜」の表彰式が、2月28日(水)に凸版印刷の共創空間"L・IF・E"(東京・秋葉原)で行われました。

当日は「入賞」「佳作」を受賞した学生に表彰状が授与された他、受賞作品についてのプレゼンテーションが行われました。

また、フェーズフリー建築協会副理事長の佐藤唯行様をお迎えし、平常時・



表彰式会場と受賞作品パネル展示

災害時の2つのフェーズに関わらず、常に適切な生活の質を確保しようとする新しい考え方「フェーズフリー」についての講演会も実施しました。

今号の Newsletter では当日の様子を同 PJ の宮脇伸歩主査が報告します。

### これからの日本の住宅を考えよう

誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に「UDプラス」の考えを推進している同PJは、学生の皆さんにフレッシュで斬新な住まいと暮らし方の提案を募るため、今回初めてこの学生コンペを開催しました。

2017 年 7 月に IAUD のサイト上で募集したところ、日本全国の熱心な学生から真摯な取り組みの応募があり、 UD の専門家と同 PJ メンバーからなる審査委員による 厳正な審査の結果、11 月に「入賞」2 件と「佳作」2 件を 選定しサイト上で発表しました。

今回の表彰式は、会場に同 PJ メンバーでもある凸版 印刷株式会社の共創空間"L・IF・E"をお借りし、華やか に実施することができました。

まずは審査委員長の古瀬敏理事長より、4 組の受賞者に表彰状が授与されました。



古瀬理事長(写真中央)による表彰状授与

#### ■入賞

- ・日本大学 理工学部建築学科 高須 信博 「街の小さな拠り所」
- 静岡文化芸術大学大学院 藤井 邦光 「呼吸をする家」

#### ■佳作

- ・九州大学大学院 人間環境学府 河村 悠希 首都大学東京 丹野 将太 「変化する家」
- ・新潟大学大学院 中津川 銀司 「膜のある屋根上の居場所」



タイル製の表彰状(LIXIL 提供)

※学生コンペ開催報告を掲載した Newsletter vol.10 第 9 号(2017 年 12 月号)はこちらをご覧ください。

https://www.iaud.net/newsletter/9424/

※各受賞作品の紹介及び審査委員の講評はこちらをご覧ください。

https://www.iaud.net/activity/9371/



その後、受賞した学生の皆さんに作品のプレゼン テーションをいただきました。

応募内容だけからは読み取りきれなかった深い考えが理解できました。

←受賞学生によるプレゼンテーションの様子

受賞者のプレゼンテーション終了後、受賞した学生と古瀬理事長、審査委員の護田桂子メンバーを交え、このコンペや各受賞作品についてディスカッションを行いました。

会場からも活発な質問やご意見をいただき、 大変盛上るものとなりました。



コンペについてのディスカッションの様子

## 常に適切な生活の質を確保する「フェーズフリー」

その後、表彰式のゲストで来ていただい た特定非営利活動法人フェーズフリー建 築協会副理事長の佐藤唯行様より、 「フェーズフリー」についてご講演いただき ました。

「日常のクオリティを上げつつ、非日常への配慮を盛り込む。日常というフェーズと非日常というフェーズのギャップが無いよう、初めから考えておく」という、フェーズフリーの考えを熱心に語っていただきました。

学生や会場を巻込んだ熱いトークに、参加者も引込まれました。



フェーズフリー建築協会佐藤氏(写真右)による講演会

## 「IAUD 住宅学生コンペ」今年度も実施へ

皆様のご協力、ご支援により、滞りなく表 彰式を終えることができました。

今年度もUDプラスの家について、アイデアを募集する学生コンペの開催を計画していきたいと思っています。

そして、これからの日本の住宅について、 研究を進めていきたいと考えます。(了)



受賞学生と記念撮影

\_\_\_\_\_\_

# テレビ字幕制作の現場を理解

## 活動報告:余暇の UDPJ NHK 字幕制作現場見学会及び意見交換会開催

余暇の UD プロジェクトは字幕普及活動の一環として、2 月 15 日(木)に NHK 放送センター (東京・渋谷)で字幕制作現場の見学会及び意見交換会を実施しました。

当日は同PJメンバーの他、会員企業関係者や東京都北区議員の斉藤りえ氏、埼玉県朝霞市議員の松下まさよ氏、(株)シュアール手話TVディレクターの今井ミカ氏など14名(うち5名が聴覚障害者)が参加し、当事者と制作者側との貴重な情報交換の場となりました。

当日の様子を同 PJ の櫻井雄太メンバーが報告します。



NHK G-Mediaでの事前説明の様子

## 字幕放送の歴史

まずは(株)NHK グローバルメディアサービス(NHK G-Media)字幕展開部の松隈天部長より、NHK での字幕制作業務の流れの事前説明を受けました。

字幕放送の歴史については、日本で最初に字幕放送をしたのが、1983年(昭和58年)10月、NHKの連続テレビ小説「おしん」での実験放送でした。

本放送が始まったのは 1985 年(昭和 60 年)11 月からで、連続テレビ小説「いちばん太鼓」 「シルクロード」。民放各社もそれぞれ字幕放送を開始致しました。

総務省では、2017年(平成29年)までに対象の放送番組の全てに字幕付与の普及目標を 定め、NHKでは、この指針に基づき一部技術的に字幕付与が出来ない番組(外国語の番組、 大部分が楽器演奏の音楽番組など)を除き、午前7時から深夜0時までの時間帯全ての番組 に字幕を付与すべく、字幕番組を拡充してきました。

地方局のニュースも、2013年(平成25年)には大阪、名古屋の一部を開始し、2014年(平成26年)には福岡、仙台で開始したとの事です。

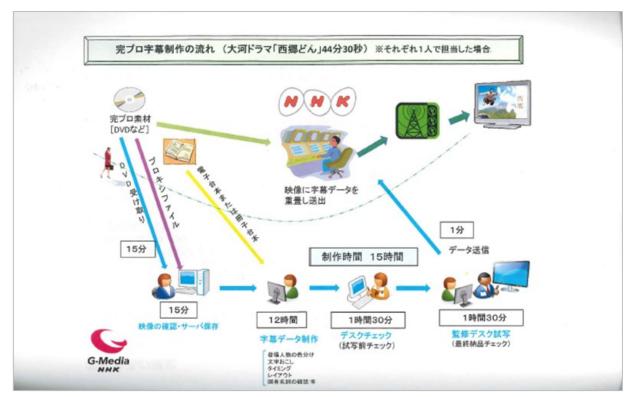
# 完プロ字幕制作とは

次に、字幕制作の流れについて説明がありました。

字幕制作は主に「完プロ字幕制作」と「生字幕制作」の二種類あり、はじめに完プロ番組への字幕付与の説明を受けました。

完プロ(完成プログラムパッケージの略)とは別名完パケ(完全パッケージの略)で、最終的に 放送できる状態にした映像のことです。NHK では「完プロ」と呼んでいます。

事前収録番組は NHK では平均で放送全体の約4割を占め、文字入力から字幕表示位置、 表示タイミング、字幕文字色などを入念にチェックしてから入稿しているとの事でした。



完プロ字幕制作の流れ(提供:NHK G-Media)

### 生で見る字幕制作現場

続いて生字幕の制作現場へ移動し、字幕付与の様子を見学しました。 生字幕制作には2つの方式があります。

①リスピーク方式:スポーツ中継番組(大相撲など)

「リスピーカー」が生放送の実況や解説を聞き、話し直して音声認識させ、誤字などの修正をしてから字幕送出させます。

音声認識はリスピーカーの声質や特徴などを学習しており、事前登録をしています。

音声認識技術はNHK技研で開発し、現在 95%位の精度を誇るそうですが、20 語に 1 語程度間違うため、まだ人の手で修正が必要とのことでした。

日々音声認識技術精度を向上させる研究開発を行っているとのことです。



音声認識で字幕化して修正をしている様子(イメージ写真)

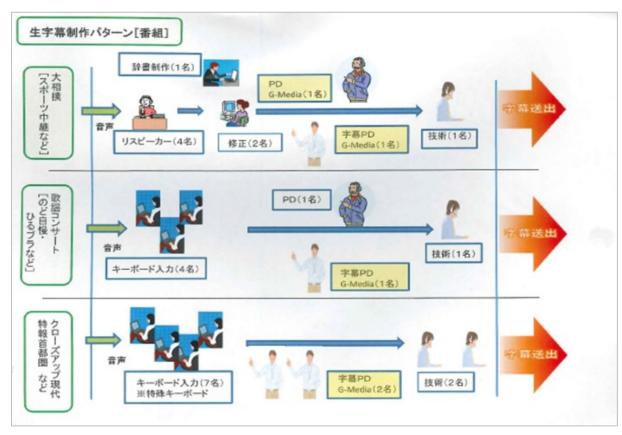
#### ②キーボード入力方式:情報番組(ひるブラ・のど自慢など)

3 名のキーボード入力オペレーターが連携入力したテキストをディレクターが確認し、字幕送出をします。

いずれも、台本がある物は出来る限り事前に入手して参考にし、人名や場所など大切な固有名詞は誤字の無いように全員で情報共有に努めているとの事です。

壁には現在放送中のドラマの登場人物の家系図や関係図が貼られていました。

また、リスピークもキーボード入力も大変な集中力を必要とする為、決められた時間で交代するなどのルールがあることも分かりました。



生字幕制作の流れ(提供:NHK G-Media)

リスピーク方式での生字幕制作現場では、映像を見ながらリスピーカーが話者の音声を読み上げ音声認識し、2名の修正担当者が瞬時にパネルタッチやキーボードで誤字などを修正して字幕付与をしていました。

我々もサンプル映像(有働由美子アナウンサーと V6 の井ノ原快彦が出演している「あさイチ」)を見ながらリスピーク体験しましたが、人によって音声認識の個人差がありました。

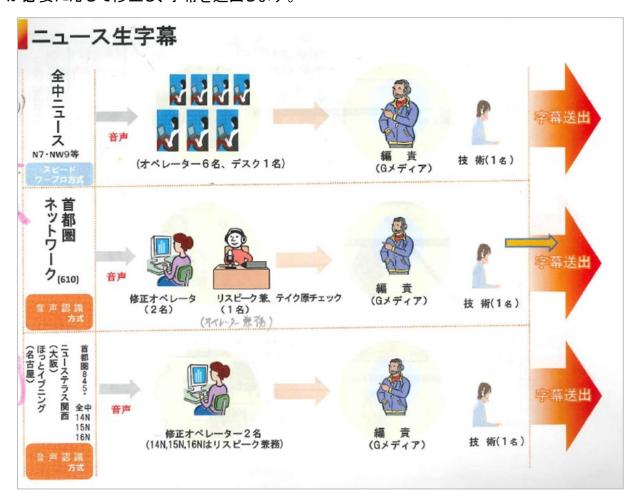
プロのリスピーカーは、滑舌よく音声認識しやすい話し方の技術を習得しており、素晴らしい 認識率でした。

また、2018 平昌オリンピック中継でもリスピーク方式で、ライブ映像を見て即座に字幕を付与していました。現場の緊張感が漂っていて、我々見学者一同も思わず息を呑みました。

## ニュース番組への生字幕制作

続いて、ニュース字幕における生字幕付与の現場を見学しました。

- ニュース生字幕には2つの方式があります。
- ①特殊キーボード方式:ニュースの音声を聞いてオペレーターが特殊キーボードを使って字幕を入力します。
- ②ダイレクト音声認識方式:NHK アナウンサーの声をそのまま音声認識させ、オペレーターが必要に応じて修正し、字幕を送出します。



ニュース生字幕制作の流れ(提供:NHK G-Media)

# 当事者と制作者との意見交換会

NHK放送センター内にある5つの字幕制作部屋を見学後、松隈部長にも同席いただいて意見交換会を行いました。以下に質疑応答の一部をご紹介します。

- Q:音楽などの効果音はどう表現していますか。
- A:効果音は♪マークで表示したり、曲名を表示したりして対応しています。
- Q:今後はAI技術なども導入していきますか。

A: ディープラーニングなどを活用し、音声データを蓄積し学習させて音声認識率を向上させる 方法があります。 但し、課題として日本語は色々なニュアンス 表現が多いので、これらを克服していく必要が あります。(難しい人名・地名にも対応が難しい)

Q:訪日外国人対応はしていきますか。

A:現在、英語字幕には対応していません。

Q:現在の生放送での字幕表示の遅れは解消 出来ますか。

A:技術的には映像自体を遅らせて表示するなどして対応可能ですが、様々な問題があり簡単ではありません。



NHK放送センター内の 4K スーパーハイビジョン

Q: 当事者の意見を取り入れた改善はどのようにされていますか。

A: お客さまからの声には全て目を通し、情報共有しています。

2018 平昌オリンピックでは歓声も字幕表現化を取り入れたところ、盛り上がり感が分かるとの声がありました。

また、「解説」「実況」など話者によって4色を使い分け、話者の特定を色分けによって改善しました。

最後に同 PJ の松森果林主査から総括として感想がありました。

今、放送されている 2018 平昌オリンピックの様子を、その場で字幕にしてテレビに出していく 作業のプロセスはとても緊迫感があるものでした。

聴覚障害者であり普段から字幕を見ている立場としては、テレビの向こう側で熱心に字幕制作をして下さっている方々がいることを思うと、字幕の見方も変わってきます。

聞こえる家族と一緒にテレビを楽しめるという当たり前のことが、多くの方の仕事に支えられて成立しているものだと強く認識しました。

私たち余暇の UDPJ では、主に「テレビ CM にも字幕を」というテーマで活動をしております。 番組への字幕は NHK も民放も 9 割を超えていますが、テレビ CM に字幕をつけている広告 主は 18 社程度です。

「字幕があると情報が良く分かる」「字幕をつけてくれる企業のファンになる」という声は本当に多く、今後一社でも増やしていくために、2018年度も字幕に関して学び、様々な企画をしていきます。

# CM 字幕付与の更なる推進へ

今回の見学で、字幕制作は多くの人たちの努力と日々の技術開発によって支えられて、今の字幕放送に繋がっていると強く感じました。

日本では、番組字幕付与は進んでいるものの、 私たち余暇のUDPが推進しているCMには字幕 付与が中々進まない現状があり、大勢の字幕 情報を必要としている人たちに伝わっていない 現状があります。

今回の見学会を実施し、実際に字幕制作の



参加者一同で写真撮影 IAUD Newsletter vol.11 No.01 2018.04

現場のプロたちに当事者たちの意見を率直に述べられた事は、お互いに貴重な情報交換の場 となった事だと思われます。

今回の趣旨に賛同し、協力して頂いた NHK 放送センターの皆様、NHK G-media の皆様、今 回参加して頂いた皆様へ感謝の意を表したいと思います。(了)



# **※IAUD** 2018 年 4 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
2	3	4	5 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	6	7	1 / 8
9	10	11	12 15:00~ 研究部会 @IAUD サロン	13 14:00~ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	14	15
16	17	18	19 14:00~ 衣の UDPJ 16:00~ 研究部会 @IAUD サロン	20 13:00〜 手話用語 SWG @IAUD サロン	21	22
23	24	25	26	<b>27</b> 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	28	29
30 振替休日						

次号は5月上旬発行予定

特集: IAUD アウォード 2017 受賞紹介② ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階 電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net